

こころの玉手箱 2月号



「旅立ちの日に」

作詞 小嶋 登 作詞 坂本浩美

白い光の中に
山なみは萌えて
遙かな空の果てまでも
君は飛び立つ
限りなく青い空に
心ふるわせ
自由を駆ける鳥よ
ふり返ることもせず
勇気を翼にこめて
希望の風に乗る
このひろい大空に
夢をたくして
懐かしい友の声
ふとよみがえる
意味もないいさかいに
泣いたあのとき
心かよったうれしさに
抱き合った日よ
みんなすぎたけれど
思いで強く抱いて
勇気を翼にこめて
希望の風のにり
このひろい大空に
夢をたくして
いま 別れのと
飛び立とう 未来信じて
弾む若い力信じて
このひろい 大空に
このひろい

☆ 1年生 ☆

- ☆ この曲はみんなの卒業生に対する思いというもので出来ていると知った。人の思いというものはこのような歌にもなるとした。
- ☆ 私は坂本先生の「本気でやりたい」「みんなで一つのものを作る喜び」などの生徒たちへの思いや小嶋校長の「歌声響く学校を作る」といった思いに答えるように、みんなも協力していくのはすごいなと思ったし、学校の空気や変えられるものなんだなと思いました。
- ☆ 小嶋校長と坂本先生の生徒への感謝の思いが感じられました。一つのことを皆で力を合わせてすることの大切さをこの歌は表していると思います。
- ☆ 旅立ちの日にの歌詞から、生徒に寄せる先生の思い、先輩から後輩に受け継がれる思いが強く伝わってきました。一つのことを皆でするのは難しいけれど、皆ですることによって深い意味のあるものが築き上げられていくのだと思いました。

☆ 2年生 ☆

- ☆ 「旅立ちの日に」は、小嶋校長と坂本先生の努力の証でもあると思いました。卒業生への思いも強く入っているけど、その学校を変えられた先生方のがんばりの証だと思いました。
- ☆ 私のお父さんやお母さんもこの曲を卒業式に歌ったと言っていました。何歳になっても歌えるほどこの曲にはいろいろな思いが込められているのだと思いました。
- ☆ この曲にはこの学校の生徒たちや先生たちの思いが込められているのだと思いました。自分も本気で歌うのはかっこいいと思っていたので、とても共感できました。
- ☆ 歌の力で学校を変えた小嶋校長先生と坂本先生はすごいなと思った。学校をよくしたいという先生の思いや、代々受け継がれた曲のように、私も詫間中の伝統を受け継いでいきたいと思った。

☆ 3年生 ☆

- ☆ 人は絶対に変わるのだと思いました。僕も卒業式でしっかり声を出して歌いたいと思います。
- ☆ 「本気で歌うってかっこいい」という言葉が心に残りました。この歌には色々な思いが込められて作られているので、その思いを感じ取りながら卒業式で歌いたいと思いました。
- ☆ いい歌詞です。泣きそうになります。みんなで過ごせるのももう少しです。
- ☆ 自分たちが卒業式で歌う歌がこのようにして出来上がったことを知り、感動しました。ただ歌詞を歌うだけではなく、背景を知って思いを込めて、感謝の気持ちを伝えようと思います。
- ☆ 何度も聞いたり、歌ったりしていると、歌詞が自分たちのことのように思えて、歌っていてすごいなと思いました。1つの歌詞で何人もの気持ちを1つにするのは歌にしかできないことだと思います。この歌に込められた想いは、卒業生である自分たちが受け継いでいくものだと思います。

保護者の皆さんへ

お子様と意見を交換して、感想などをお気軽にお寄せください。

----- 切り取り線 -----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

「旅立ちの日に」

令和3年 2/17実施

昭和63年（1988年）、埼玉県秩父市立影森中学校に赴任した小嶋登校長は「歌声が響く学校を作る」というスローガンを掲げました。当時、小嶋校長は落ち着いた雰囲気のない影森中学校を歌の力で変えようと考えていたのです。

小嶋校長と同時に着任したのが、音楽の坂本浩美先生でした。音楽の授業では生徒たちはなかなか口を開こうとせず、教壇の方を向かない生徒もいました。若い坂本先生にとってはつらい毎日が続いていました。

一学期の半ば、坂本先生は合唱部にコンクールへの出場を提案しました。そこには「歌声が響く学校」というスローガンのもと、「みんなでひとつのものを作る喜び」を生徒たちに経験してもらいたい、という坂本先生の思いがありました。しかし、合唱部の部員は女子ばかり16人。混声合唱のためには、男子の応援が必要でした。その時期に運動部を引退する三年生の男子たちに、坂本先生は「本気でやりたい」と必死に伝え、応援を頼みました。勇気を出して振り絞ったその声は震えていたといいます。そして昼休み、待っていた坂本先生のもとに、男子生徒たちが現れ始めました。中には全く予期していなかった生徒の顔もありました。十数名もの男子が、坂本先生の呼びかけに応じてくれたのです。

運動部で活躍した三年生が本気で合唱の練習をしている・・・その姿によって学校の空気が変わり始めました。「本気で歌うってかっこいい」と他の生徒たちも思い始めました。「歌声が響く学校」のスローガンは少しずつ学校に変化をもたらしたのです。

そして月日は流れ、坂本先生が赴任してきた年に入学した生徒たちは卒業を迎えることになりました。

「卒業生に歌を作って贈りたいのですが、詞を書きただけでいいですか。」

坂本先生は小嶋校長にお願いしました。しかし、小嶋校長はつれなくこう言いました。「自分は英語の教員だし、詞を作るセンスなんてないよ。」と。ところが翌朝、坂本先生が出勤してくると、机の上に紙が置いてありました。それは小嶋校長が作った詞だと分かりました。

「白い光の中に・・・」

その詞のすばらしさに坂本先生の心は震えました。すぐさま音楽室のピアノに向かうと、「勇気を翼にこめて」の部分から旋律が次々と頭に浮かび、わずか15分ほどの時間で一気にメロディーができました。こうして生まれたのが「旅立ちの日に」です。その年、小嶋校長や坂本先生をはじめ影森中学校の先生たちが内緒で練習した「旅立ちの日に」が卒業生に贈られました。

今では、卒業式の定番として、全国の学校で歌われている「旅立ちの日に」。生徒に寄せる先生の思い、先輩方後輩へと受け継がれる思い・・・。「旅立ちの日に」には、そんな思いが宿っているのかもしれない。

出典「私たちの道徳」文部科学省

保護者からの声 『東京ディズニーランドから学ぶ』

- 人が嫌がるような仕事も、心の持ち方ひとつでとても素晴らしい仕事になると気づかされました。裏方さんあつてのディズニーランドなのでしょうね。一度行ってみたいです。
- どんな仕事でも前向きに考え、誇りを持って働くことは素晴らしいことです。勉強も同様に、今与えられたことを一生懸命に取り組んでほしいと思います。
- 以前、といってももう30年ほど前に、当時の役員の方からお話を伺い、感動しました。今回のスタッフとコミュニケーションをとるために夜中まで掃除をしていた事や従業員の方の仕事ぶり・・・またまた感動しています。何の仕事でも心の持ちようで結果は全然違います。そして、人生に無駄な事もないんです。きっと、トイレ掃除が楽しくなった事と思います。仕事でも何でも“楽しい”という気持ちは、幸せであり、重要なポイントですね。
- トイレ掃除は罰ゲームとしてさせられるという固定された意識を恥ずかしく思いました。心が健康になる事は、何事にも前向きでいられ、自分や周りの人も幸せにできると気づかされました。

いつもたくさんのご返信、ありがとうございます。紙面の都合上、ご返信頂いた感想の一部のみを掲載しています。ご了承ください。